

大杉だより

NO21 2月5日号

平川中 美・礼・時+A

志を支え、才を育む 愛があふれた学校を目指して

Mail : hira-j@yamaguchi-ygc.ed.jp

URL : <https://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/hira-j>

☎ 924-7700

今年は2月2日が節分でした。改めて、なぜ豆をまくのかを調べてみました。

「節分（せつぶん、せちぶん）は、雑節の一つで、各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日のことであり年に4回あります。昔は、冬が終わって、春が来る日を一年の始まりと考えており、1番大切な節分とされていました。2月の最初の節分に行なう豆まきというのは、大昔の日本の一年のしめくくりの行事であったのです。また、豆には鬼（おに）を退治（たいじ）する効果があると信じられていました。昔の人は、病気はすべて鬼のしわざと考えていました。そこで、悪いことをする鬼が来ないようにと願って豆をまいたというわけです。つまり節分の豆まきは、一年の最後の日に鬼を退治して、新しい年をむかえましょうという、昔のおまじないのようなものだった。」との説があります。

学習に向かう学校の様子紹介

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校公開や参観日を行うことができない状態が続いています。現在の授業や学習の様子をご紹介します。

◇音楽科「和楽器に触れる」

音楽科の授業には、日本の伝統的な楽器である「箏」を学ぶ内容があります。先日1年生において、箏に触れる学習を行いました。初めて箏を演奏する生徒が多かったのですが、グループで教え合いながら練習し、「さくらさくら」を演奏しました。



◇家庭科「調理実習」

1年生の家庭科では、栄養素や食事について学んでいます。



その一環として、調理実習を行いました。この度のメニューは、ご飯、豚肉の生姜焼き、ピーマン炒めでした。生徒は、事前に役割分担や調理手順を確認しており、班員が協力して手際よく料理や後片付けを行っていました。



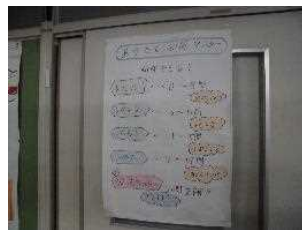
◇2年生国語「漢字に込めた1年の目標」

2年生のワークスペースには、国語の授業で行った今年の目標を漢字に込めた作品が展示してあります。「『進』困難なことがあっても前を向いて頑張る。」や「『変』現状維持ではなく成長するために以前の自分と変わる。」など、生徒は、自分の今年の目標を漢字に表しています。



◇受験に向かう3年生の「掲示物」

受験まっただ中の3年生。1学期からスタートした「自学おおすぎ企画」。一人1冊終わるごとに各クラスの木に名前シールを貼り付けていきます。幹に80枚のシールが貼られると新たに1本植えられる仕組みになっています。1月末には、学年で12本が植えられており、平均一人7冊終えたこととなります。合計1000冊までもう少しのところまで迫っています。また、掲示板には、「小論文対策」「公民クイズ」などが貼られ、受験に向け、学習に力を注いでいる雰囲気が感じられます。



小学校へ出前授業

1月27日、野村校長と鈴木教諭が平川小学校を訪れ、6年生を対象に授業を行いました。この出前授業は、中学校入学を目前に控えている小学6年生が、入学への不安を軽減することや中学校での学習の見通しをもつことを目的に行っています。



野村校長の国語科は「詩の題名を考えよう」をめあてに学習



しました。児童は、詩の情景を想像し題をつけ、班の中で発表し合いました。鈴木教諭の理科は「音はどのようにして伝わるのか考えよう」をめあてに、糸電話などを使用し、音の伝わりについて考えました。児童は、中学校の教師による学習を体験し、専門的に学べる楽しさに触れ、中学校への入学が楽しみになったようでした。

新しい生徒集会「少数決クイズ」



2月1日、新生徒会初のイベントとなった生徒集会を開催しました。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、放送による集会となり、「少数決クイズ」と題してクラス対抗戦を行いました。



ルールはクイズの答えをA Bの2択から選ぶのですが、単純に正解すると得点が与えられるのではなく、全12クラスの解答を集計し、正解の上に解答したクラスが少なければ5点、不正解でも解答したクラスが少なければ3点を獲得するというものでした。生徒は出題されるクイズの正解は分かるものの、どちらを選べば少数となり、得点が与えられるのかをクラス内で討議していました。全校生徒が楽しめる内容を企画した新生徒会役員のみなさんありがとうございました。

